



駅体制の見直しについて 提案を受ける！②

～業務委託駅の営業体制の変更について議論を行う！～

1. JR東日本ステーションサービスについて

- ・東海駅 みどりの窓口営業終了、お客さまサポートコールシステム運用拡大
- ・大甕駅 みどりの窓口営業終了、お客さまサポートコールシステム運用拡大
- ・常陸多賀駅 みどりの窓口営業終了、お客さまサポートコールシステム運用拡大
- ・南中郷駅 無人化
- ・相馬駅 みどりの窓口営業終了

2. 実施日

2023年3月18日(土)

主な労使議論

組合:東海・大甕・常陸多賀の体制について明らかにすること。

会社:各駅とも1徹1日勤体制を組んでいた。JESSで決定する事柄だが3駅4徹で運営する。JESSはエリア管理を行っており、今後は1徹で運営する。なお、大甕に人を寄せると聞いている。

組合:お客さまサポートコールシステム運用拡大について明らかにすること。

会社:現行泊まり勤務者は終電まで起きていて、早朝はサポートコールシステムを運用していた。今後は1徹体制に伴い、休憩時間等にサポートコールシステムの運用を拡大する。

組合:南中郷駅の無人化の根拠について明らかにすること。

会社:お客さまのご利用状況を鑑みて判断した。乗車人員は1日平均465名。9割以上が定期券をご利用するお客さまである。介助が必要なお客さまの件数は3～4年で0件である。現行は1日勤体制で、インターホンでの対応(スマートステーション)やサポートコールシステムも運用している。

また、JESSはエルダー社員の雇用先でもあった。役割の縮小も鑑みて無人化を行う。

組合:相馬駅みどりの窓口営業終了について根拠を明らかにすること。

会社:原ノ町エリアの販売体制や発売実績を鑑みて判断した。

MVで対応出来るため、みどりの窓口の営業を終了する。

組合:相馬駅の体制を明らかにすること。

会社:現行1徹体制である。こちらに変更はない。



JR東労組水戸地本は、組合員の声を踏まえ、施策に向き合います！